

◇実践活動記録

発見！ わたしたちのふるさと 朝日町 ～朝日町で働く人から学ぶ～

1 はじめに

朝日町では「朝日町型小中連携教育」を進めており、「ふるさとを愛し、地域の発展に貢献できる子供の育成」を教育目標としている。目標の具現化のため、「ふるさと教育の充実」を教育の柱とし、町ぐるみで地域を題材とした教材開発を行ってきた。

本校においても、地域の自然や歴史・文化・産業等の郷土教材を各学年の教育課程に位置付け、学校と地域が一体となった学習を進めてきた。今年度は地域で働く人の思いに触れる活動に重点を置き、郷土に対する愛着を深められるよう、「発見！わたしたちのふるさと 朝日町—朝日町で働く人から学ぶ—」というテーマを設定し、ふるさと教育を進めた。

2 各学年の実践

① 3年生の実践

社会科 単元名「町の様子と人々のくらしのうつりかわり」

朝日町の歴史を研究している学芸員である川端典子氏をゲストティーチャーに招き、朝日町の人々のくらしの変遷について学んだ。特に明治時代から昭和初期、そして現在に至るまでの生活や道具の違いに着目して学習を進めた。

川端学芸員の指導の下、児童は洗濯板を使用した手作業による洗濯の体験をした。児童は水の冷たさや作業の大変さに戸惑いを感じるとともに、現在の生活が昔の人々の不断的努力や工夫の上に成り立っていることに気付いた。

町の歴史を研究している地域の学芸員から学ぶことにより、児童は地域をより身近に感じ、町の歴史についても理解を深めることができた。



② 4年生の実践

総合的な学習の時間 テーマ「朝日町ゆるゆる遺産パート3」

「朝日町ゆるゆる遺産パート3」をテーマとして設定し、地域の偉人から学ぶ活動を通して町の伝統文化について学習を進めた。

富山県唯一の現役農鍛冶職人である大久保中秋氏が営む鍛冶屋で現地学習を行った。大久保氏は75年間に渡り鍛冶職人として、地域に伝承されている「泊鉈」や鍬、鋤を作り続けている。

90歳を越える大久保氏の作業を目の当たりにした児童は、固唾を呑んでその様子に見入っていた。長年にわたり地域の文化を守り抜き、今なお一流の技術をもつ大久保氏の姿に、児童は町の伝統文化について理解を深めるとともに、地域の偉人に対する尊敬の念と誇りを感じることができた。



③ 5年生の実践

特別の教科道徳 主題名「A真理の探究」 教材名「森 群平」

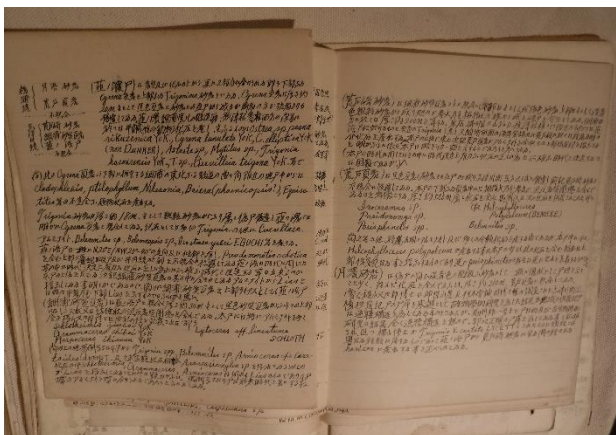
町の学芸員の久保貴志氏をゲストティーチャーに招き、郷土の偉人である森群平氏を教材とし、特別の教科道徳の授業実践を行った。

教材となった森群平氏は昭和初期に小中学校の校長を務めながら、内地留学制度等を利用し地質学を学び、生涯にわたって独自の調査研究を進めた人物である。特に古植物学においては、世界的な発見も多数あり、後進への協力を惜しまなかった研究者である。

町の学芸員である久保貴志氏もまた地質学を専門としており、森群平氏の研究を基に朝日町の化石等について研究を進めている。森群平氏の家族



からは生前の研究ノートや発掘された化石を託されるなど、地質学者としても第一線で研究を進めている。



授業の導入では、森氏が発掘した化石や直筆の研究ノート等の実物に触れる活動を取り入れた。児童は、地域の偉人が残した成果物や町で発掘された化石に強い関心を示した。その後、久保学芸員が森氏の功績や生き方について詳しく説明すると、児童は食い入るように話を聞いていた。担任が「森さんが生涯をかけて研究を続けたのはなぜだろう？」と問いかけると、児童は思考を巡らせ、それぞれの思いを口にした。

未知を追い求め、真理を探究しようとする森氏の生き方から、そして、その研究を引き継ぐ久保学芸員の熱意から、児童は自分の生き方について振り返るとともに、地域に誇りをもつことができた。



④ 6年生の実践

総合的な学習の時間 テーマ「朝日町のよりよい未来を考える」

「朝日町のよりよい未来を考える」をテーマとして設定し、地域の自然体験学校「夢創塾」での里山体験を通して、ふるさとに生きる意義について深く考えた。

主宰者である長崎喜一氏は、子供が自然の恵みを自分の肌で直接感じたり、里山の生活を体験したりすることにより、自然を大切にしようとする気持ちを育みたいという願いから「夢創塾」を設立した。

「夢創塾」において、児童は地域の特産品であるバタバタ茶づくりや塩づくりを体験した。また、弓矢遊びや丸太のシーソー遊び等の遊びも体験した。児童は里山の自然を全身で感じながら、生き生きと活動することができた。地域の自然を満喫した児童は、「朝日町の自然を守りたい」「自然を残すために自分にはなにができるだろうか」等、町の自然を大切にしたい、守り続けたいという思いをもつようになった。



3 まとめ

児童は、地域の自然や文化、歴史について、朝日町で働く人から詳しく学んだ。講師の先生の熱い思いに触れながら、実物に触れたり、実際に体験したりすることにより、地域の魅力を再認識することができたように思う。

ふるさと教育を推進するにあたり、児童だけでなく、学校にも大きな収穫があった。それは育てたい子供像を地域と共有できたことにある。今後も地域と学校が目標を共有しながら、ふるさとに愛着と誇りをもち、地域に貢献できる人材の育成に努めたい。